

各地の便り

奈良県における畜産環境の現状と対策

奈良県農林部畜産課 畜産振興グループ 北原 敬朗

1. 奈良県のあらまし

奈良県は日本のほぼ中央部、紀伊半島の真ん中に位置し、大阪府・京都府・和歌山県・三重県に囲まれた海のない内陸県です。面積は3,691km²で全国都道府県中第40位、全国面積の0.98%を占め、南北に細長い形状をしています。

本県の地形は北部低地と南部吉野山地とに大別され、北部低地帯は全般的に標高500m程度の山地が多く、それらが奈良盆地の四方を囲んでいます。南部吉野山地は県土面積の約2/3を占め、深いV字溪谷に挟まれた近畿の屋根と称される大峰山脈等が広がり、全般に急斜面を巡らせた地形となっています。

人口は143万人で全国都道府県中第29位、総人口の1.1%を占めています。

気候は地形と同様に北部と南部で大きく差があり、北部は温暖小雨で平均気温は15℃前後、年間降水量1,500mm程度ですが、南部は山岳性気候で平均気温は年6℃前後と低く、全国的にも屈指の多雨地帯となっています。特に三重県との境に位置する大台ヶ原一帯は年間降水量4,000mmを超え、鹿児島県屋久島とともに我が国の最多雨地帯です。

2. 奈良県の農業の現状

本県では恵まれた気象条件と高い土地生産力に支えられ、京阪神都市圏への至近性を活かし、地域の特性に応じた収益性の高い農業が展開されています。なかでも、柿(生産量全国2位)、うめ(同4位)、荒茶(同6位)、いちご(同12位)、なす(同16位)は全国有数の生産量を誇り、特にいちごの「アスカルビー」は知名度も高まりつつあります。

県内の総農家戸数は29,870戸(平成16年度)で、販売農家が6割、自給的農家が4割という構成になっていて、全国平均と比べて自給的農家の割合(全国平均同26%)が高くなっています。

耕地面積は23,400ha(平成16年度)で、総土地面積の6.3%を占めています。耕地種別に見ると、田(72%:全国平均55%)及び樹園地(16%:全国平均7%)の占める割合が全国平均に比べて高いのが目立ちます。

農業産出額は546億円(平成15年度)で構成割合をみると、野菜29%、米25%となっており、野菜の割合が高いのが特徴です。

3. 奈良県の畜産の現状

本県の畜産は、都市近郊に位置する有利な条件のもとで発展してきました。畜産の産出額は77億円(平成15年度)で本県の農業産出額の約14%を占め、野菜、米に次ぐ主要な部門として重要な役割を果たしています。

畜種別にみると、乳用牛の占める割合が最も高く、次いで鶏、肉用牛、豚の順となっています(表1)。乳用牛・鶏・豚については、県中部で半数以上が飼養されており、肉用牛は県中部に加えて、県東部でも盛んに飼養されています。

特に最近では食に対する安全・安心を求める動きが高まっており、生産履歴等を明確にして地域の特色を打ち出した「大和肉鶏」、「大和牛」のブランド強化を図り、流通を推進しています。

表1 飼養戸数・頭羽数

(平成16年3月31日現在)

畜種	戸数	頭羽数	頭羽数/戸
乳用牛			

	96 戸	5,342 頭	56 頭
肉用牛	149	4,159	28
豚	15	12,081	805
採卵鶏	72	970,725 羽	13,482 羽
肉用鶏	22	85,270	3,876



写真1 大和牛



写真2 大和肉鶏

4. 畜産環境保全に対する奈良県の取り組み

本県では、都市化・混住化の進展、環境保全に対する意識の高まりなどから、畜産環境問題が深刻化する中で、補助事業を活用しながら対策を進めてきました。県を南北2つの地域に分け、地域畜産環境保全推進指導協議会を設置し、県・市町村・関係団体等が連携しつつ、巡回指導や実態調査などの畜産環境保全に対する取り組みを行っています。

家畜排せつ物処理施設の整備については、地域の条件等を考慮しながら整備計画を策定し、1/2補助付きリース事業や国庫補助事業等を活用して施設整備を進めてきました。平成12年度以降は、1/2補助付きリース事業と国庫補助事業で合計30戸の施設整備を実施しています。現在簡易対応を実施している農家は、可能な限り恒久的な施設の設置を進めるように指導していく方針です。

また、堆肥流通の促進にも取り組んでおり、堆肥共励会・環境保全型農業推進講演会の開催、堆肥マップの作成などにより、畜産農家の堆肥生産技術の向上と耕種農家の堆肥利用の普及啓発に努めていきたいと考えています。

平成16年11月より「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進」に関する法律が完全施行されました。管理基準に適合しない事例が確認された場合には、法に基づく指導や、助言・勧告等を実施することとなります。本県も同法を踏まえ家畜排せつ物の適正管理及び有効利用を促進し、畜産業の健全な発展に資するため取り組んでいきます。



写真3 堆肥共励会



写真4 環境保全型農業講演会